

公エ予030437号

令和3年4月23日

各 { 都道府県
保健所設置市
特別区 } エイズ対策担当課長 様

公益財団法人エイズ予防財団

理事長 白 阪 琢 磨

(公印省略)

令和3年度世界エイズデーポスターコンクールの実施について（依頼）

時下 ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素からエイズ対策につきましてご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当財団では、厚生労働省からの委託を受け、青少年エイズ対策等事業を実施していますが、その一環として、青少年へのエイズに関する知識の普及啓発のため、別添実施要領のとおり、世界エイズデーポスターコンクールを実施することといたしました。

つきましては、本コンクールへのご協力をお願いするとともに、貴管下関係機関（教育委員会、学校等）への周知方をお願い申し上げます。この場合、規格外のサイズや横向きの作品は審査対象外となる等、実施要領を十分に確認して応募するよう周知いただければ幸甚です。なお、昨年度から「小学生の部」と「中学生の部」はひとつに統合し、募集区分は「小学生・中学生の部」「高校生の部」「一般の部」の3部門となりましたのでご留意ください。

また、実施要領は、エイズ予防情報ネット (<https://api-net.jfap.or.jp/>) に収録しているほか、本年度の「世界エイズデー」キャンペーンテーマは、決定され次第、同サイトで公開することを申し添えます。

【本件照会先】

エイズ予防財団事務局（堀内、岩田）

電話：03-5259-1811



令和3年度世界エイズデーポスターコンクール実施要領

この度、エイズ予防財団では、以下に掲げる要領により標題のポスターコンクールを実施いたします。HIV感染予防やHIV／エイズの理解と支援に関心のある方はもとより幅広くどなたでも参加していただくことができます。奮ってご応募ください。

1 募集区分

作品（ポスター）の募集は、次の3区分により行います。

(1) 小学生・中学生の部 (2) 高校生の部 (3) 一般の部

2 募集内容

募集する作品は、一人ひとりがHIV感染予防に取り組むことを訴えるもの、HIV陽性者・エイズ患者への理解と支援を呼びかけるもの、HIV検査の受検を呼びかけるものとします。

3 応募規格

応募作品は、四つ切り画用紙（縦540mm×横380mm）又は B3判（縦515mm×横364mm）のサイズで、縦向きとします。コンピュータグラフィックスによる作品もこの規格サイズで印刷してください。

なお、規格外のサイズ、横向きの作品は審査対象外となります。

4 応募方法

応募作品は1人1点で、平面のものに限ります。「応募用紙」（別紙様式）に所定の事項を記入し、作品裏面に貼付の上、郵便又は宅配便により送付します。その際、作品を折りたたんだり、丸めたりしないでください。

なお、応募作品の返却はいたしません。

5 応募上の注意事項

- ① 応募作品は未発表のオリジナルに限ります。それ以外の作品（既発表作品、模倣・類似と認められる作品等）は審査から除外するとともに、受賞決定後であってもこれを取り消す場合があります。また、作者本人の了解無く応募したことによるトラブルについて主催者は関知しません。
- ② 過去の「世界エイズデー」キャンペーンテーマの使用は控えてください。また、本年度のキャンペーンテーマを応募作品に反映することが可能なときは、テーマの趣旨を十分に理解した上で、テーマの文言は変えることなく使用してください（注：キャンペーンテーマは、決定され次第、エイズ予防情報ネット（<https://api-net.jfap.or.jp/>）で公開予定）。

- ③ キャッチコピー、デザインなどの表現方法は自由ですが、キャッチコピーにはできるだけ“エイズ”“AIDS”又は“HIV”を入れるようにしてください。また、参考1「HIV／エイズの基礎知識」、参考2「エイズ広報を行う際の留意事項（不適切な表現等）」を参照し、誤りや不適切な表現がないようにしてください。抵触するときは審査時に選外となることがあります（注：“AIDS”と“HIV”はすべて大文字表記。誤字・脱字に注意）。
- ④ HIV／エイズへの理解と支援の象徴“レッドリボン”は赤色です。エイズ予防情報ネット内のサイト(<https://api-net.jfap.or.jp/lot/whatRedribbon.html>)から画像データをダウンロードし、応募作品に使用してかまいません。
- ⑤ 受賞作品の著作権は、主催者に帰属するものとします。

6 応募締切日

令和3年9月6日(月)（当日受付印有効）

7 応募作品送付先

〒101-0064 東京都千代田区神田猿樂町 2-7-1 TOHYU ビル 3 階
公益財団法人エイズ予防財団ポスターコンクール担当宛て

8 審査・選考及び表彰

- ① エイズ予防財団ポスターコンクール審査会において、HIV／エイズに関する正しい理解、HIV感染予防、HIV検査の周知、HIV陽性者・エイズ患者への理解と支援、多様性の尊重等の視点から、応募作品のキャッチコピーやメッセージ等の正確性、表現の適切さ、ポスターとしての完成度・デザイン性・メッセージ性・インパクト・期待できる効果等について審査を行います。
- ② 審査会では、上記の審査を経て、募集区分ごとに次のとおり受賞作品を選考します。ただし、「該当なし」となる場合もあります。
- (1) 最優秀賞 1点 (2) 優秀賞 2点 (3) 佳作 数点
- ③ 審査・選考結果はエイズ予防情報ネットで発表するとともに、受賞者には、賞状及び副賞を贈呈します（10月予定）。

【エイズ予防財団ポスターコンクール審査会】

審査員長 中島邦信

審査員 何 英二、小林沙織、都丸雅明、長江翔平、灰 来人（敬称略。
五十音順）

9 キャンペーンポスターへの使用等

- ① 審査会において各募集区分の最優秀賞に選考された作品（計3点）のうち1点を本年度の世界エイズデーキャンペーンポスターとして使用します。
- ② キャンペーンポスターには、必要に応じて、厚生労働省、エイズ予防財団等の文字情報が付加されます。また、作品の一部を修正することがあります。

- ③ 各受賞作品は、「世界エイズデー」(12月1日)、「H I V検査普及週間」(6月1日～7日)等における予防啓発活動に使用するほか、H I V感染予防の啓発普及パンフレット、チラシ、グッズ等のデザイン(非営利目的のみ)、雑誌等への掲載広告に利用することがあります。
- ④ 主催者等が受賞作品を利用して広報用ポスター、パンフレット等を作成する場合、所属学校名、氏名を掲載することがあります。
- ⑤ 受賞作品のポスター(撮影)画像はエイズ予防情報ネットに掲載し、ダウンロードフリーとします。

10 主催者

公益財団法人エイズ予防財団

《問い合わせ先》

エイズ予防財団事務局
(堀内、岩田)

電話(03)5259-1811 FAX(03)5259-1812

(別紙様式)

令和3年度世界エイズデーポスターコンクール応募用紙

(提出日： 月 日)

募 集 区 分 (該当する番号を○で 囲んでください)		1 小 学 生 ・ 中 学 生 の 部 2 高 校 生 の 部 3 一 般 の 部			
応 募 者	ふ り が な				
	氏 名				
	年 齢	歳	学年、組	年	組
	住 所	ふりがな			
		漢 字			
		ふりがな			
		漢 字	(〒 ー)		
電 話 番 号					
所 属 学 校	ふ り が な				
	学 校 名				
	学校の所在地	ふりがな			
		漢 字			
		ふりがな			
		漢 字	(〒 ー)		
	学校の電話番号 担 当 者 氏 名 メールアドレス				

注：1 提出日現在を基準にして所定の事項を記入の上、この応募用紙を作品裏面に貼付してください。

2 「所属学校」の所在地・電話番号を記入した場合は、応募者個人の住所・電話番号は記入不要です。ただし、その場合も「学年、組」欄は記入してください。

3 学校に所属しない方は、「所属学校」欄は空欄としてください。

(参考1)

H I V／エイズの基礎知識

◆ エイズとは？

- ① エイズ (AIDS = Acquired Immunodeficiency Syndrome) は、日本語にすると「後天性免疫不全症候群」といい、HIV というウイルスに感染して起こる病気です。

HIV に感染してもすぐにエイズを発症するわけではなく、また、風邪に似た症状が出る場合がありますが、HIV 検査を受けなければ感染しているかどうかは分かりません。

病気とたたかう抵抗力（免疫）が低下して発症するまで数年と、ある一定期間自覚症状のない時期が続くことが特徴です。

- ② HIV の感染経路は限られているので、感染を予防することができます。

感染経路 ○ 性行為（異性間・同性間）による感染
 ○ 血液を介しての感染（注射器具の共用など）
 ○ 母親から赤ちゃんへの母子感染

*ポイント（伝えたいメッセージ）

- ・ 予防することで HIV 感染が防げること。
- ・ 予防のためには、感染経路についてきちんと理解すること。予防のためにはどのような行動が大切かを理解すること。
- ・ ひとごとではなく、自分のこととしてこの病気を考えることが大切。

◆ 世界と日本のエイズ

- ① 国連合同エイズ計画 (UNAIDS) の発表によると、2019年末現在で約3800万人の HIV 感染者とエイズ患者が世界中でこの病気とたたかっています。

- ② 日本における2020年の HIV 感染者及びエイズ患者の新規報告数（速報値）は、1,076 件であり、4年連続での減少となったものの、予断を許さない状況です。

*ポイント（伝えたいメッセージ）

- ・ HIV 感染が身近な問題であること（世界でも日本でも）。

◆ 検査と治療について

- ① 検査：HIV 検査は、全国の保健所等で「無料・匿名（名前を言わずに）」で受けることができます。
- ② 治療：いまのところ、からだの中の HIV を完全にとりのぞく治療法はありません。ただし、医療の進歩によって、発症する前に多剤併用療法を始め、きちんと服用すれば、発症を遅らせ、他の慢性疾患と同じように入院することなく定期的に病院に通うことで、コントロールが可能になっています。つまり、早期発見による早期治療が重要です。

*ポイント（伝えたいメッセージ）

- ・「HIV 検査は、全国の保健所等で無料・匿名で受けることができる」のに、その情報を知らない人が多い。みんなに知ってもらい、もっと活用してほしい。
- ・検査を受けることは、自分のためにも、相手のためにも大切なこと。自分のからだの状態を知ることは、自分をケアしていること。
- ・感染しても、早期に分かればいろいろな治療方法が可能になる。仕事も勉強も続けることができる。また、さまざまな専門家や NGO が支えてくれ、一緒に HIV / エイズと向き合ってくれる。一人ではない。
- ・でも、私たちの心に、「エイズは怖い」という気持ちが強く、HIV 感染者への偏見・差別はまだ根強く残っている。感染者・患者も周囲からの偏見・差別が怖く、なかなかまわりに本当のことを告げることができない。一人ひとりが HIV 感染症とエイズを正しく理解し、この課題と向き合うことによって、偏見・差別が解消され、みんなで話し合える場をつくることができる。

◆ 世界エイズデーとレッドリボンについて

- ① 世界エイズデー：世界的レベルでのエイズまん延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消を図ることを目的として、12 月 1 日が“World AIDS Day”（世界エイズデー）と定められました。この日を中心に世界各地でエイズ予防・支援のためのイベントなどが行われています。
- ② レッドリボン：“レッドリボン（赤いリボン）”は、エイズに関する理解と支援のシンボルマークです。レッドリボンは、あなたがエイズに関して偏見をもっていない、エイズと共に生きる人々を差別しないというメッセージです。
このレッドリボンの意味を知り、レッドリボンを身につけることによって、エイズをみんなで考えることが大切です。

(参考2)

エイズ広報を行う際の留意事項（不適切な表現等）

患者・感染者を傷つけたり、差別、偏見を助長するような表現は避ける

◇エイズ撲滅、エイズ抑圧、エイズ根絶

→ 患者・感染者が傷つく表現なので避ける。「HIV 感染症／エイズのまん延の防止」「患者・感染者に対する差別と偏見の解消」などの表現が望ましい。

◇エイズをたたきのめす、やっつける

→ 患者・感染者を排除しようとするイメージを与える表現なので避ける。

◇エイズ汚染、エイズ禍、ウイルスをまき散らす

→ 患者・感染者が社会を汚しているというイメージを与える表現なので避ける。

◇理性ある行動をとるべき、節度ある行動をとるべき

→ 患者・感染者はだらしない人というイメージを与える表現なので避ける。

◇ハイリスクの人、エイズ多発国、エイズ先進国

→ 危険なのは、「人」ではなくハイリスクな「行動」。また、HIV 感染の流行について「多発国」「先進国」という表現は不適切なので避ける。

◇（感染すると／発病すれば）必ず（100%）死ぬ

→ 近年、治療の進歩により、HIV 感染症が早期に診断されれば、服薬を続けることでエイズ発症を抑えることが可能である。また、エイズを発症したとしても、適切な治療を受けることで「必ず（100%）死ぬ」とは限らず、適切な表現ではないため避ける。

◇エイズの恐怖・魔の手、忍び寄るエイズ

→ いたずらに恐怖心をあおる表現は避ける。

◇ホモ（ホモセクシュアル）

→ 蔑称として使われることが多い。「MSM*」「男性同性愛者」「ゲイ」などの表現が望ましい。

*MSM (Men who have sex with men)：男性で同性間性的接触を行う者（バイセクシュアルも含まれる。）

◇レズ

→ ホモとセットで蔑称として使われている。「レズビアン」「女性同性愛者」などの表現が望ましい。

◇多数との無防備なセックス

→ 相手が多数でなければ大丈夫という誤解を与えるため避ける。

◇コンドームを使うのは男の役割

→ 女性用コンドームの使用もありうること、また、同性間での性的接触もあることなどから、適切な表現ではないため避ける。